

たちあがる肖像

草野海子

和紙が降る

ひとひら

ふたひら

悪戯な摂動を

残像に刻み

幾枚もの和紙が

時計の内の歯車のように

指揮者の描く軌道のように

拍を徴しながら

予感がある

和紙がなめらかに

重なっていく

枯葉のつぶやく

かすかな擦れとともに

和紙は快くて宙を舞い

和紙は快くて互いに擦れ

和紙は快くてとどまる

スモーク・グラスのように透ける和紙

血管のように透ける線

予感がある

和紙がひとひら
重なっていくたびに
ひとひら
積もってゆくごとに
頭になるのは

畏怖の肖像

別の像を見出そうとしても
ひとひら
白木が彫り進められるように
逃げ場もなく確かになるのは
熱情の偶像

驟雨に煙るように
寄る辺なくたちあがってくるのは
ひとひら
わたしのころの形状
わたしの輪廻
の象徴